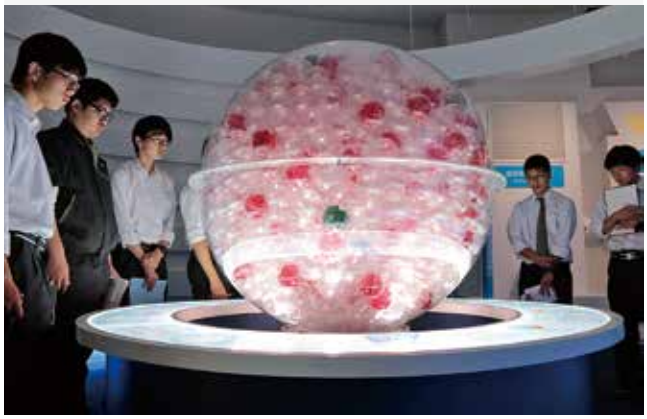
きらり光る地域



▲暮らしや産業・技術を支えるガスに特化した学習施設は全国でも貴重な存在です。

「ものづくりガス」を学ぶ さんそ学習館ケイオス（亀島町）

ものづくりガスを紹介

トラックが頻繁に往来する市内屈指の事業所の集積地・亀島町。その一角に緑豊かな庭を備えた古代オリエント風の建物があります。さんそ学習館「ケイオス」。名前の由来は、ガスの語源であるギリシャ語「カオス」の英語式発音から名付けられました。

同館は、ガス（＝気体）を学ぶことができる学習施設。一般財団法人さんそ財団（並河勉理事長）が運営し、設立20周年となった昨年10月に開館しました。

「ものづくりガスがキーワードです」と話すのは玉川副館長。燃料以外に、私たちの暮らしや街中で様々な用途に使われるガスの働きが分かりやすく説明されています。

「ガスは物質としては見えないものです。展示では、子どもたちがイメージしやすいようになるべく可視化することを心がけました」と話すように、展示には様々な仕掛けが取り入れられています。

親しみやすい素材で展示

学習室に入るとすぐに目につくのが巨大な球状の展示物。地球を取り巻く混合物である空気を紹介する「空気ガチャ・Pon（ポン）」。大気中には酸素や窒素、アルゴンをはじめ、少量の二酸化炭素などが含まれています。この比率を色の異なる1000個のガチャガチャ風のケースで表現しています。

展示の最大の見どころは、約13メートル×4メートルの立体的なスクリーンに、7台のプロジェクターで投影するプロジェクションマッピング。8種類のガスの用途を山陰の街を舞台に紹介していきます。

この他、奥出雲地方で盛んに操業されたたたら製鉄とガスとの関わりを展示。ガスが古（いにしえ）から利用されていることを知ることができます。

ケイオスの意味は見えないもの、混沌（こんとん）。でも、展示からはいろいろな形でガスと日々、接していることがわかります。

▼玄関の列柱はレバノンの世界遺産「バールベック」をイメージ。

【さんそ学習館ケイオス】
亀島町2-1、電話21-9777
▼入館料：無料▼開館時間：10時～16時（最終入館）▼休館日：水曜日・祝日・年末年始・お盆▼特別展示室：事業家、篤志家である並河理二郎翁ゆかりの資料を展示。

編集後記

▼農業サポーター制度の取材でお邪魔したイチゴハウス。ハウスの長さを聞くと100メートルとのこと。それが1つ、2つ、3つ。それだけで収穫作業の大変さが伝わってきました。安来の特産品の多くは農業者だけでなくサポーター、制度を運営する人のそれぞれの強い熱意によって支えられています（旬）

▼ケイオスの取材では元素や化学式に久々に接しました。O、H、C・・アルゴン？しかも学校では教わらなかった（忘れた？）空気中から取り出す気体が多々あることに驚きました。社会人も勉強になる施設です。館を上空から見ると楕円形が二つ並んでいるとのこと。酸素の化学式は「O2」でしたね（の）

安来市の人口と世帯数　H30.5.31現在

人口合計／　39,099人
（男:18,753人　女:20,346人）
世帯数／14,281世帯

政策秘書課編集／安来市役所
〒692-8686島根県安来市安来町878-2　電話:23-3010 / FAX:23-3161
ホームページhttp://www.city.yasugi.shimane.jp
メール:hisho@city.yasugi.shimane.jp

VEGETABLE OIL INK
R70 古紙パルプ配合率70%再生紙を使用
●資源保護のため、この広報紙は再生紙を使用しています。
●広報紙にあなたの写真が載りましたら、差し上げますのでご連絡ください。
●自治会宛の発送等につきましては、地域振興課（☎23-3067）までご連絡ください。